

JR東労組 本部OB会

東日本旅客鉄道労働組合
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
JR代々木総合事務所5F
Tel. 03-5315-0941 (代)
発行責任者 奥山光昭

ニュース

No. 304 2025年 9月発行

戦後80年 9条連結成30年 即時停戦を求め、恒久平和を創造する8・23集会



リモート参加含め 500名が参加！

OB会員 65名参加！！

劇団文化座・貨物労組青年部 朗読劇 ガザ・モノローグ



武力で平和はつukれない！強行採決から10年
戦争法廃止！9.19国会正門前大行動

2300人が国会前行動に！

諦めず声を上げ続けよう！

9月19日、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会／9条改憲NO！全国市民アクション主催の、武力で平和はつukれない！強行採決から10年戦争法廃止！9・19国会正門前大行動が開催されました。

JR総連・9条連の仲間とともに多くのOB会員も参加。自民党政治を終わらせ立憲主義を取り戻すため、10年まへの悔しさをバネに「戦争法廃止！9条守れ！」の声を上げました。

その後、防衛ジャーナリストの半田滋さんより、本集会の感想とアドバイスと「今伝えたいこと」と題した問題提起を受け、9条連とともに各地から連帯の輪を広げることを確認し、集会は大成功に終了しました。

第一部で、JR総連加盟単組のフィールドワークの報告①JR貨物労組 神戸・海員組合「戦没した船と会員の資料館」、②5連協 松代平和和研修、③JR西労 広島原爆、④JR東労組 沖縄平和研修報告、⑤JR北海道労組 国内初地対艦ミサイル実射訓練）があり、参加者は新たな事実を知ることができました。

第二部では、劇団文化座とJR貨物労組青年部員による朗読劇「ガザ・モノローグ」(2008年・2009年、ガザ地区に対するイスラエル軍の空爆と地上侵攻を経験した若者たち30名が書いたモノローグ集、パレスチナ市民の声なき声を伝え、世界30カ国以上で上演)を上演しました。今もアメリカの支援を受ける、イスラエルによってガザへの空爆が続く、何の罪もない市民が命を失いケガをし、十分な食料もなく不衛生な環境でも耐え忍んでいた市民は、住み慣れた家を追われ、命からがら避難の選択を迫られています。即時停戦を求め、恒久平和を創造することが私たちの焦眉の課題です。

JR総連OB連絡会
47名が参加！

日本退職者連合

2025全国高齢者集会

宇田川新事務局長の基調報告の後、警視庁特別防犯対策監、杉良太郎さん(俳優)の「世のため、人のためにどう貢献できるか」題する、人生経験を織り交ぜた講演をいただきました。

また、昨年続き「高校生平和大使の取り組み」について、2名の若者から報告があり、署名とカンパを参加者で取り組みました。(2026年は9月15日です)



日本退職者連合は9月18日、東京・文京シビックホールにおいて「2025全国高齢者集会」を1200名の参加者で盛大に開催しました。JR東労組OB会から首都圏を中心に37名(JR総連OB連絡会として、47名が参加しました。昨年同様オープニングは、創作和太鼓でした。

主催者あいさつで、先の第29回定期総会で新しく選出された野田那智子会長は、「日本政府に非核三原則の遵守と核兵器禁止条約への署名・批准を強く求め、核兵器廃絶1000万署名を成功させよう！差別・排外主義を許さず、ジェンダー平等社会を実現しよう！」と訴えました。

連合から清水事務局長、立憲民主党野田代表、国民民主党浅野青年局長、社民党ラサール石井参議院議員から挨拶をいただきました。

終着駅は始発駅！これからも労働者魂を貫こう！

新潟地本 O B 会は 7 月 26 日、第 29 回解散総会を各支部 O B 会から総勢 70 名の参加で開催しました。

会員の高齢化が進み、今後の会員の加入も見込めないなか「体力があるうちに解散」と表明して 3 年間、支部・分会 O B 会との議論を積み重ね当日を迎えました。

山崎会長から「私たちの運動はまだまだ続きます。多くの仲間に出会えたこと、力をもらったこと、力を与えたことを誇りにして、これからも各々の場で奮闘しよう。その意味で終着駅は始発駅になります。お互いに新たな出発を誓い合おう。これからも労働者魂を貫いて闘い続けよう」とのあいさつがありました。

委員からは、地本 O B 会結成以来取り組んできた、レクや飲み会、会員の相互扶助と見守り、組織分裂を策した者たちとのたたかい、選挙闘争、原発再稼働反対、平和を希求するたたかいなどを展開し、仲間たちとの絆を強めてきた。そのことを財産に、今まで以上に健康を気遣いながら地域でたたかう決意が述べられました。

最後に、「アピール」を満場一致で採択し、新潟地本 O B 会 28 年の幕を閉じました。尚、約 150 名が本部 O B 会員として継続することを確認しています。今後本部 O B 会が連絡窓口となります。これまでの協力に感謝いたします。これからもお元気で！



新潟地本 O B 会 解散総会

**アピール
爆然と輝く O B 会 28 年の歴史で培った JR 東労組新潟地本 O B 会精神 (魂) を忘れずに、社会正義とヒューマニズムを貫き、これからも健康でさわやかに生き抜こう！！**

横浜

横浜地本 O B 会は 7 月 18 日、茅ヶ崎市勤労市民会館で、第 29

回定期総会を 70 名の参加で開催しました。冒頭、今年 4 月に亡くなられた鳴瀬事務局長に「黙祷」を捧げ、O B 会活動の継承・発展のため奮闘することを確認しました。

進藤会長・来賓あいさつの後、参加者からの発言をいただきました。倉茂新会長、関根新事務局長を選出し終了しました。

二部で、梶田委員長より、問題提起を受け、懇親会は、住所を横須賀に移した水戸地本・川崎幹事を含め、感想・意見を出し合いました。

新体制

会 長	倉 茂	大船支部
副 会 長	杉 永	小田原支部
副 会 長	小 沢	大船支部
事務局長	関 根	川崎支部

東京

東京地本 O B 会は 7 月 26 日、地本会議室で、第 5 回定期総会を開催しました。回を重ねるごとに参加者は増

え、元気に再開することができました。

小林会長は、「地本の協力を得ながらレクや足尾の森への研修などを通じ、会員相互の絆を深めてきた」とあいさつ、来賓の下雅意委員長から、「現在の会社経営の課題、労働組合の本来の姿、東労組はいかにたたかうべきか」など、自分の経験してきたことも含め、未加入者に訴えかけるような、力強く分かりやすいあいさつがありました。

定期総会への返信メッセージは 54 名からいただきました。健康に関する内容が多く、まずは体を大切にしましょう。

懇親会は地本の協力を得て、例年通り手作りでを行い懇親を深めました。

O B 会は、現役をしつかり支え共に歩んでいくことを確認し終了しました。

新体制

会 長	小 林	富夫	青木メディア
副 会 長	家 後	政雄	田町運転区
副 会 長	末 重	博	地本 O B
事務局長	樋 口	晃司	日本ホテル

鉄道を愛し、ただ会社を良くつたいだけ！

J R 東労組は、1 万人組織実現に向け、全組合員の力を結集させ奮闘しています。加入を決意した仲間が言っていることは、「パワハラの横行、それを許す会社を変えたい」「安全やサービスでこれ以上お客様からの信頼を失うことのない会社にした」「明るく楽しく働ける職場にしたい」など、この会社を利用者にとって、働く社員にとってより良い会社になりたいというものです。

私たち O B は、鉄道の復権、会社の発展、社員・家族の幸せ実現のためたかつかってきました。また、「ローカル線を残してほしい」「便利な鉄道にしたい」という地域の願いに応えるため、血と汗と涙を流し国鉄改革を担ったのです。車掌や営業職、技術職、その職を極めることが経営効率を大きく妨げるものでしょうか。全ての夢を叶えろ！などと言っているではありません。

**こんな会社にするために、
改革に汗したわけではない！**

各地本 O B 会総会が全て終了しました。現役の役員からパワハラ横行の職場、安全軽視の経営姿勢などを聞き、「こんな会社にするために改革に汗したわけではない」「安全は大丈夫か」「これでは地域で J R 東日本の O B と言えない」など、会員から怒りと不安の声が出されています。

J R 東日本は、度重なる新幹線のトラブルで「お客さまに不信と不安を、社員には不満と怒りを」与えています。直接安全を守っているのは株主ではなく現場で汗して働く社員です。従って、安全に関する経営の考えを分かりやすく社員に発信することが求められています。株主に説明するような言葉を並べても、社員は安全確保のため、何をすべきかを理解することはできません。

消えた「安全」！事故は本社の会議室で発生！

J R 東日本は 7 月、グループ経営ビジョン「勇翔 2034」を発表しました。驚くことに、グル

ープ経営理念から「安全」の言葉が消えました。会社は「安心」と言う言葉にしたと言っています。が現場では、疑問の声が上がり混乱しています。国土交通省は安全対策に関し、「事故は本社の会議室で発生」。また、「事故の源流を遡ると本社の事業計画に到達」と述べています。会社には、新幹線トラブルを含むこの間の事象を捉え返し、お客さまの信頼を取り戻す努力が求められます。

運輸安全マネジメント制度で「経営管理部門と現場の橋渡し役である現場管理部門の役割が大きい」と言っています。そもそも経営トップの安全に関する思い、考え方が現場管理者に伝わっているのか。経営管理部門の考え方を現場に理解しやすく現場視線で伝える力が求められる現場管理者は、「安心のなかに安全がある」と言われても、現場社員に何を伝えてよいか戸惑うだけです。

O B 会は国鉄改革の精神を忘れず、会社をよくするために奮闘する現役の取り組みを支えます。

豪雨災害から、完全復旧に程遠い現実

地球温暖化、気候変動による異常気象、自然災害は甚大化し、多様化しています。J R 東日本管内では、津軽線・花輪線・陸羽東線などが自然災害によって一部区間が未だ不通で、米坂線に至っては今も復旧に着手せず、利用者に迷惑と不便をかけています。

J R 東日本に求められているのは、近年の気候変動に対する危機感が弱く、十分な対策を取らなかったことを反省し、早期の鉄道での復旧と、災害対策の強化です。利用者に不便をかけた後、二次交通の課題解決と言って、「空飛ぶ車」を飛ばすことでもありません。

経団連は、巨大地震に備えた総合対策で提言をまとめました。永野経団連副会長は「世界は自然災害で年間約 35 兆円の経済損失を出している。日本は約 2 割を占める災害大国。企業活動の途絶は日本経済、人々の生活の継続にも直結、防災・減災に取り組むのは責務でしょう」と述べています。会員企業として J R 東日本には、「防災・減災」の取り組み強化を求めましょう。